

令和5年度第1回 参画と協働のまちづくり審議会ワークショップでの意見「市民」

・市民参画状況の説明を聴いてどう感じたか

○回答率について

- ・若い30代の方が80人も回答している。
- ・回答率が低いのは、コロナの影響もあるのでは。
- ・回答率としてはこんなものかなと思った。
- ・スマホによる回答があればよかった。
- ・アンケートの回答率は、自分の仕事でも低かった。
- ・手軽に回答できるとよかった。
- ・他市町のアンケート回答率がわからないが、今回の回答率は意外と高いのでは。
- ・協働のまちづくりが進めば率も上がると思う。

○イベントの認知

- ・イベントを知ったきっかけなども興味がある。
- ・コミセン講座の認知度に驚いた。

○地域ごとの状況

- ・地域ごとの結果など、細かい調査をしてみてもいいのではないか。
- ・この調査とは別に行ってみてはどうか。
- ・地域ごとに課題は違う。
- ・自分の地域では、出前スーパーの利用が少ないが、必要な地域もあると思う。
- ・対象者を増やせばもっと細かい結果が出るのではないか。

・市民活動を活性化するためには

○きっかけづくり

- ・市民活動は、気が付いたらいろいろやっていた。
- ・一緒にやる人とつながりを持てた。
- ・地元でいろいろなイベントに参加するうちに知り合いが増え、今の活動につながっている。
- ・まとめサイトがあると便利かなと思いウェブサイトを始めた。
- ・広場のラジオ体操で知り合いが増えた。
- ・新聞を発行することで、情報を共有することができ、参加し易くなった。

○活動拠点

- ・集会所を整備することで、サークルが活性化した。
- ・広場を整備することで、体操など交流が生まれた。
- ・コミセンの利用は少しハードルが高い。
- ・コミセンは敷居がまだ高い。
- ・公民館よりもコミセンは利用し易い。

○イベント

- ・コミセンロビーで飲食は可能か。
- ・指導者にも自由に使えるというアピールを
- ・講師を探すのが大変である。

・行政区活動（自治活動）の活性化

○自治活動への関心

- ・新規の居住者には、集めて活動などを説明している。
- ・最近自治会（行政区）に入らない人が増えた。
- ・昔の自治（自治会）と今の自治（コミュニティ）は違う。
- ・自治会に入ってもメリットがないと考える人がいる。
- ・イベントはどこでもやっているのだから、自分のところでやることを望んでいない。
- ・まつりが大切で、自然に交流が生まれる。

○高齢化、人手不足、負担増

- ・集まる機会をつくることで、活動する人が増え、区長などの役職候補者が出てくるのでは。
- ・高齢化が進む中、活動も限られる。
- ・自分の活動だけで精一杯
- ・周りから活動を抑えるように言われる。
- ・PTA、子供会にも入ってもらっている。
- ・これ以上負担を増やしたくない。

○費用負担

- ・活動にはお金が必要。
- ・ばらまきと思われることも必要。